

倉吉市立小学校適正配置推進計画の小学校区別説明会の概要(前半)

1 説明会の構成

(1) 教育長あいさつ

(2) 説明(学校教育課長)

・小学校適正配置についての説明

(3) 質疑・意見交換

2 実施状況

(1) 西郷小学校区

- ① 日時 平成28年5月10日(火)午後7時30分～8時40分
- ② 場所 西郷公民館大会議室
- ③ 参加者 地域住民・保護者・教職員等 15名
市教委：教育長、教育委員、事務局長、学校教育課長、
教育総務課長 等



(2) 河北小学校区

- ① 日時 平成28年5月12日(木)午後7時30分～8時45分
- ② 場所 上井公民館多目的ホール
- ③ 参加者 地域住民・保護者・教職員等 12名
市教委：教育長、教育委員、事務局長、学校教育課長、
教育総務課長、生涯学習課長 等



(3) 小鴨小学校区

- ① 日時 平成28年5月16日(月)午後7時30分～9時00分
- ② 場所 小鴨公民館大会議室
- ③ 参加者 地域住民・保護者・教職員等 25名
市教委：教育長、教育委員、事務局長、学校教育課長、
教育総務課長、生涯学習課長 等



(4) 成徳小学校区

- ① 日時 平成28年5月24日(火)午後7時30分～9時15分
- ② 場所 成徳公民館大会議室
- ③ 参加者 地域住民・保護者・教職員等 34名
市教委：教育長、教育委員、事務局長、学校教育課長
教育総務課長、生涯学習課長 等



(5) 灘手小学校区

- ① 日時 平成28年5月26日(木)午後7時30分～9時20分
- ② 場所 灘手公民館大会議室
- ③ 参加者 地域住民・保護者・教職員等 42名
市教委：教育長、教育委員、事務局長、教育総務課長 等



(6) 明倫小学校区

- ① 日 時 平成28年5月30日（月）午後7時30分～9時15分
- ② 場 所 明倫公民館大会議室
- ③ 参加者 地域住民・保護者・教職員等 39名
市教委：教育長、教育委員、事務局長、学校教育課長
教育総務課長、生涯学習課長 等



(7) 上北条小学校区

- ① 日 時 平成28年6月2日（木）午後7時30分～9時05分
- ② 場 所 上北条公民館第1会議室
- ③ 参加者 地域住民・保護者・教職員等 18名
市教委：教育長、教育委員、事務局長、学校教育課長 等



3 質疑・意見交換の概要 [○：質問・意見 →：教育委員会回答]

【推進計画について】

- 時代はどんどん少子化に向って行くわけだから、それに合うように私たち大人が変わっていかなくてはいけない。子どもたちのことを第1に考え、教育は大事だという観点に立ち、統合の問題を進めていくべきだと思う。
- 子どものことを考えるなら、スポーツしている子どもが、他の学校と一緒に合って合同チームを結成している状況を、何とか解決するためにも早く統合を進めてほしい。
- 小学校2年生の保護者だが、東中校区へ統合という方針は賛成で早く進めてほしい。灘手小が統合する学校と交流する事業を考えていただけないか。東中に行くときに友達が少ないので、今から年に数回でもドッチボールをすとか、金管に参加すとか、早い段階から交流をさせてやりたい。
→関金小と山守小の場合も懸念されていた。同じ旧関金町の中で交流はあったが、統合準備委員会が立ち上がったからは、集合学習という形で最低でも月1回は、一緒に学ぶようなことを積み上げていた。PTAも交流を図ろうとプログラムを作成して、子ども達が一緒になった時に抵抗なく行けるように努力していたし、そのための必要な予算は付けていた。協議会でまとまれば早い段階での交流も可能になる。
- 小鴨小学校は当分、児童の減少はないので明倫小学校と統合し、成徳小は上灘小と灘手小と統合する方が良い。
- 隣接しないで飛び地になってしまうということについては、どのような議論があったか。
→灘手小が社小に行く場合でもスクールバスになり、先の事を考えると同じ中学校に進む成徳小・明倫小と一緒にいる方が、社小に行って3つに分かれるよりいいと判断した。飛び地にはなるが、通学的には同じスクールバスということで、時間的にも変わらないことからこの計画となった。
- 成徳小と明倫小が統合することは反対ではないが、灘手小と一緒にすることで校区が広がりすぎて心配が増える。
- 長い目で見たら成徳小は、上灘小も含めた統合を考えるべきではないだろうか。
- 子どもの将来のために大人がどれだけ痛みを耐えて、大人の都合や過去ではなく変化を受け入れられるか。
- もう市長の政治判断もされるべきだと思う。市長の意見や方針を話してほしい。

【統合校について】

- 統合することは仕方のないことだが、環境面を考えると校地は成徳小の方が絶対に良い。
- 児童数が少ない、校舎が足りないということであれば、3年生までは成徳小を使い4年生からは明倫小を使うという両方の校舎利用でも良いのではないか。
- 成徳小学校は耐震工事で立派な校舎になるのに、明倫小学校へ行くのはもったいない。
→建設中の2階建ての校舎は、現在の児童数での校舎でしか建てられなかったもので、統合となると更に校舎を建設する必要がある。そのため校舎に余裕のある明倫小学校へと考えている。
- 小鴨小としては、校歌を変えてほしくないが、どうしても新しい校歌を作る考えか。
→今考えているのは、2つの学校を閉校して新しい学校をつくるという考えなので、新しい校名や校歌・校章を考えている。

【地域振興について】

- 関金に子ども歌舞伎という伝統行事があり、それを地域の方が子ども達を中心に継承してきている経過があるが、統合後の子ども歌舞伎の伝統行事がこういった形で継承されるのか。
 - 閉校する前から、この子ども歌舞伎について議論されていたが、結論としては続けていくということ。今後は山守地区の子どもだけでなく、幅広く関金地区全体の子どもたちで出来ないか検討している。
- 地区に学校がなくなると寂れてしまう。地方創生に逆行する。
- 小学校があるということは、地域が暮らしやすいし、小学校を核とした地域創生をするためにも地区には学校がほしいというのが我々の願いだ。この計画は地方創生と叫ばれるようになる前からだと思うが、この地方創生というものを役所としてどう考えているか。
 - 地方創生という中で、大きく“教育・学校”ということは議論すべきである。今のままで子ども達の教育環境が維持出来るかどうかや、将来の子ども達のことを地域の中で考えることは地方創生の中でも検討することとなっているので、統合問題と一緒に考えていくべきである。また小学校が統廃合になった後、どう活用するか新しい地域のあり方、新しい地域の創造ということも視点に入れ一緒に検討する。（総合政策課）

【協議会、準備委員会について】

- 準備が出来れば協議会から統合準備委員会にするとあるが、どのようになれば準備が出来たと言えるか。
 - 適正配置協議会については、それぞれ5名程度の代表者が集まって様々な意見を交換して、課題解決となれば準備委員会を立ち上げて、地域の方々、小学校保護者、保育園保護者等集まってもらい、学校側が作成した教育目標の原案を検討したり、校名・校歌・校章等を協議し、新しい学校の開校を目指して取り組んで行きたいと考えている。
- 統合準備委員会の人数はどれくらいを考えているか。
 - 協議会より更に人数を増やして、具体的な内容を話し合ってもらいたい。関金小・山守小の時は、保育園・小学校からそれぞれ4名ずつ保護者を増やした。
- 保護者の割合が多い方が良いと思う。いろいろな意見があるので、自由に意見が言える方がいいし、反対している人が全面に出られて何も言えない状況ではいけない。子どもの学びということを第1に考えて議論するためにも、保護者が多い方が良い。
- 適正配置協議会の考え方として、推進していくための課題をどうクリアしていくかを検討していくのが主旨になっていくのか。
 - そこの中には課題が当然出るわけだから、協議会でそういう課題は出してもらいながら協議してもらおう。今の状況のままでは、「賛成だ、反対だ」と平行線で全然かみ合わないのだから、同じテーブルについてもらって議論していただく。課題がある以上、解決していかなければならない。

【統合した関金小学校について】

- まだ1ヶ月しか経ってないが、関金小学校の子どもたちの様子はどうか。
 - 関金小学校と旧山守小学校へ行って、先生や保護者の話を聞く機会があったが、1年間かけて一緒に交流してお互いをよくわかっているということもあって非常に慣れるのが早かった。山守小の時は、図書館で本を借りる際に受付で待つことがなかったが、統合して人数が増えたことで待つことに戸惑いがあったようだ。その待つという経験によって、譲り合ったり相手を思いやることが身についてくることも、人数が多いからこそ学べることである。また、山守小の時には走ることが1番だった子が初めて負けたということで、ものすごく奮起して練習に頑張っている姿もあり、切磋琢磨することを通して自分の持っている力をより伸ばそうとする姿が見える。音楽の学習では二部合唱が出来たり、大勢で音楽を楽しむことに喜びを感じていると聞いた。
 - 4月末に関金小学校児童にアンケートを取り「新しい学校には慣れましたか」「学校は楽しいですか」「新しい学校になって友達は増えましたか」「たくさんの友達と学習するようになって学習は楽しいですか」「人数が増えてクラスに元気がありますか」という問いに対して、いずれの項目も90%以上が肯定的な回答であった。また「自分の考えや意見を話すことができますか」という問いでは肯定的評価は80%だったので、統合してまだ1ヶ月しか経っていないので、これからだと思っている。

【その他】

- 集合学習を行う場合、小鴨小学校だと多くの人数が動くことになり、バスが相当数必要になるが、輸送費等のバックアップは考えていただけるか。また、交流に関わっての考えのことだが、上小鴨小の児童が一体どういう環境で学んでいるか、どんな良さがあるかを実際に肌で感じ取っていかなくてはならないし、広瀬分校についてもどんな歴史があるのか教職員も知っておくことなど、現場に行ってみることも必要になるので、そうした時の財政的な配慮もしてほしい。
→山守小・関金小の場合、昨年度、一昨年度と両校に対して輸送費を市で支援した。学校統合に際してこういった交流学习については同じように財政措置を考えている。また小規模の気持ち、地域性を知ることとはとても大切で、地域が広がることでそれぞれの地域を知るという取り組みには予算を組んでいきたい。
- 財政面は関係ないということでこれまで提示されなかったが、今回このように明示されてよくわかった。結局、複式学級になると県・市の負担が多くなり、このままだと複式学級が増え財政がものすごく大変になると懸念している。よく学校がなくなると地域が寂れると聞けるが、地区の公民館もあるのでどんどん活用し、地域でいろいろな事が出来ると思うので検討してほしいと思っている。
- とても大事な視点で、学校と地域がどのように連携、そして協働していくかということをも文科省からも言われているが、倉吉で行っている地域学校委員会は、すばらしいと評価いただいている。こうした取り組みで地域と連携し、みなさんの力を借りていけば防げていくと考える。